

柳川の掘割

Yanagawa Canals

福岡県



九州を代表する河川、筑後川と矢部川に挟まれ有明海を望む柳川市は、クリークと呼ばれる掘割(水路)が縦横に流れ、詩人北原白秋などの文化人を生み育てた情緒あふれる水の都です。

掘割は柳川の象徴であり、かつて上水道や農業用水路、舟運など市民の生活用水路としての役割を担っていました。しかし、昭和30年代以降、上水道や道路の整備が進むにつれて掘割の役割は失われ、市民の生活から次第に遠



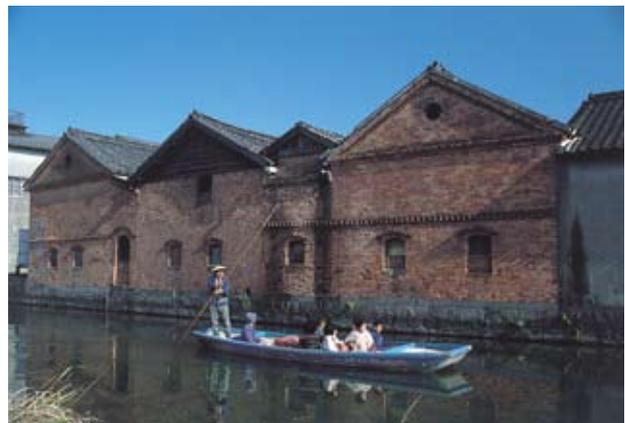
浚渫事業当時の掘割

のいてしまいました。維持管理されなくなった掘割は水環境の悪化が進み、昭和52(1977)年には、下水道事業により

暗渠化・埋め立てする計画が出されました。ここで、当時の市の担当者が、掘割の重要性と再生の必要性を呼びかけたことがきっかけで地元の意識が高まり、住民参加による掘割の再生が始められました。

昭和53(1978)年から掘割の浚渫事業が着手され、当初、27kmを5年で浚渫する計画でしたが、それも2年足らずで達成し、更に10km延ばして、3年2ヶ月で完了しました。その後も、柳川の町内会と市の協働で定期的な掘割の浚渫や清掃が取り組まれ、まち並み、水辺空間の整備がなされ、掘割は見事に蘇りました。掘割の再生の記録は高畑勲監督により「柳川堀割物語」として映画化されています。

手こぎ舟での掘割の川下りは、水の都の風情を満喫できる観光の目玉となっています。川下りコースの外堀と内堀の分岐点にある並倉は、水面に映えるレンガ壁の赤が美しい観光名所で、平成12(2000)年には国の登録文化財に指定されています。



並倉